

局区X方針の取組状況 (R6年8月～11月)

各局区が主役となり、変革方針を表明

局区長のリーダーシップの下、
変革の方針を策定・公開

〇〇局区X方針

- ・使命
- ・変革課題・目標等
- ・R6取組み



① 自己点検

- ・局区長のリーダーシップの発揮
- ・新ビジョンを踏まえ、特に変革が必要な課題（変革課題）の洗い出し
- ・幹部職員の参画

② 変革課題・目標等の設定

- ・局区X方針の公表
- ・市民への丁寧な発信
- ・局区内職員との意識共有

課題解決に向けた
取組み

③ X会議(進捗の公開)

- ・見直しが困難な課題を可視化
- ・データ等を用いて客観的に分析

局区長等を中心に自己点検を実施し、変革課題の洗い出しやその課題解決策等を意思表示(公表)することで、変革の推進力を高めつつ、局区の経営意識の向上を図る

局区X方針の概要

完了

進行中

6月
4日

【X会議】
実施概要の公表

6月
7日

【1次照会】
A・B・Cレベルに分けて課題の洗い出し

7月
3日

【2次照会】
課題の磨き上げ、解決案の検討

7月～
8月

担当副市長ヒアリング

8月
21日

【X会議】
局区X方針の公表

12月
20日

【X会議】
局区X方針の取組状況の公表

できる改革から“即”実施
定期的に進捗状況を確認

局区長のリーダーシップの下、
変革の取組みを推進！

局区X方針の進捗状況(Aレベル)

X方針の進捗状況の報告の目的

全ての課題について、取組みの実行により課題の解決にどの程度近づいたか、到達状況を見える化すること。

今回の報告対象 (Aレベル)

各課題の到達状況を事務局で1~3にランク付けした。

課題レベル	総数	ランク3	ランク2	ランク1
A 現行業務の改善	132	13	118	1

【ランク3】 完了したもの

【ランク2】 具体的な作業をしていることが確認できるもの

【ランク1】 内部的な検討や協議にとどまっているなど具体的なアウトプットが見られないもの

Aレベルの課題の分析結果一覧

局名	番号	課題名	ランク
会計	1	財務会計システムの機能アップ 〈DX推進〉	2
会計	2	会計事務へのデジタルツール（RPA）の活用 〈DX推進〉	2
会計	3	会計関連ルール、事務処理マニュアルの見直し 〈効率性・生産性向上〉	2
危機	1	様々な災害パターンを想定した災害シミュレーションの構築	2
危機	2	市職員の防災対応能力の向上	2
危機	3	介助や移動手段がない方に対しての避難支援の仕組みづくり	2
デジ	1	DXの推進による区役所の窓口改革（予約サービスの導入など）	2
デジ	2	AI・RPA・ローコードツール等による業務効率化の拡大	2
デジ	3	DXによる照会・回答業務の削減事例創出	2
デジ	4	市役所本庁舎におけるオフィス改革	2
デジ	5	DX人材の育成（ゴールド人材向け研修の開始）	2
技監	1	公共工事の設計・施工に係る審査や検査の更なる効率化に向けた事務改善	2
技監	2	公共工事などを担う若い技術職員のモチベーションアップに向けた環境づくり	2
技監	3	良質な市民サービスに必要な契約事務の効率的改善	2
政策	1	ふるさと納税の寄附受入額の増加	2
政策	2	北九州都市圏域の情報発信	2
政策	3	国際関連施策を効果的に展開するための庁内情報共有の促進	2
総務	1	区政強化のための新たなスキームの検討	2
総務	2	市民センターの使用要件の緩和	2
総務	3	公民館類似施設への支援について	2
総務	4	本庁舎階市民ホールの有効活用	2
財変	1	市政変革の取り組みと連動した年度予算編成方針の作成	2
財変	2	公共施設リボーン対策の財源確保	2
財変	3	未利用の市有地・市有施設の売れる化・使える化	2

Aレベルの課題の分析結果一覧

局名	番号	課題名	ランク
財変	4	来庁者が好感を持ち、職員も安心して働ける税務窓口の実現	2
財変	5	市民にわかりやすい「市政変革」「財政」「税務」の広報・周知	2
保福	1	デジタル活用等による市民・事業者向けサービスの向上	2
保福	2	デジタル活用等による業務の効率化	2
保福	3	ホームレス自立支援 ニーズに沿った支援の検討	2
子家	1	市民意見の集約及び検討実施のルーティン化	3
子家	2	「市民の声」に対応した保育所、子育て支援施設等の早期改善の実施	2
子家	3	多様な子どもを受け入れる保育現場への支援	2
子家	4	インターネットを活用した子育て情報発信の改善	2
環境	1	日明積出基地の廃止の検討	3
産経	1	相談窓口利用者（中小事業者）のプライバシーへの配慮	2
産経	2	学研都市体育館の満足度向上	3
産経	3	総合農事センターの機能向上と環境・運営コスト低減	2
産経	4	デジタル技術の活用による業務の効率化	2
産経	5	データマネジメントによるビジネス戦略と業務の効率化（名刺情報、企業情報、漁港漁場情報、農地情報等）	2
産経	6	業務委託の推進（民間活力の積極的な導入）（就職・転職サイトの改修、漁港施設の管理、市職員による実地調査）	2
産経	7	行政サービスの向上（国際ビジネス政策、ため池の安全啓発、漁港施設の劣化情報共有、農林関係使用許可等手続き）	2
産経	8	職員の育成	2
創造	1	ユーザー目線を踏まえた現場改善（文化、スポーツ、観光・コンベンション）	2
創造	2	アートへのアクセスの多元化	2
創造	3	文化施設における観光客向けサービスの充実	2
創造	4	スポーツ施設のオンライン予約の導入	2
創造	5	観光関連データを官民で共有するプラットフォーム構築（官民連携による観光振興）	2

Aレベルの課題の分析結果一覧

局名	番号	課題名	ランク
戦略	1	移住を考えている方にとって分かりやすく集約された移住PRツールの作成	2
戦略	2	観光関連施設や工場、物流施設等の立地を促進する開発審査会審査基準の見直し	3
戦略	3	企業の進出可能性等に関する一元化された情報の活用	2
戦略	4	空き家に関する情報の一元化	2
戦略	5	市民サービスのDX化の推進	2
整備	1	【除草主体の対策から防草対策への転換】基本戦略策定	2
整備	2	【除草主体の対策から防草対策への転換】防草対策にかかるコスト削減	2
整備	3	継続的かつ効率的な公園の維持管理体制の確保	2
整備	4	地域のニーズに沿った都市ストック（公園）の有効活用	2
港湾	1	新ビジョンの実現に向けた局内の新たな推進体制の構築	2
港湾	2	クルーズ船寄港地としての北九州港の更なる魅力向上	2
港湾	3	洋上ウィンドファーム建設用港湾施設（基地港湾）の運用ルールの策定	3
港湾	4	空港アクセスの強化とターミナルビルの賑わいづくり	2
門司	1	若者と地域の連携窓口の明確化	2
門司	2	若者と地域とが連携できる機会の創出	2
門司	3	広報の充実による各地域行事への住民参加の促進	2
門司	4	地域の安全・安心の向上に向けた地域組織と関係機関との連携強化	3
門司	5	来庁せずに利用可能な行政サービスの広報と市民窓口サービスの充実	2
門司	6	区役所案内サインの更なる充実	2
門司	7	大里公園駐車場開場時間の柔軟な対応	3
門司	8	来庁者や職員にとって、安全安心で快適な区役所づくり（カスタマーハラスメント対応）	2
小北	1	窓口サービスの向上のための業務改善	2
小北	2	「キオスク端末」の活用促進による窓口混雑解消	2

Aレベルの課題の分析結果一覧

局名	番号	課題名	ランク
小北	3	小倉都心部の賑わい創出	3
小北	4	来庁者や職員にとって、安全安心で快適な区役所づくり（カスタマーハラスメント対応）	2
小北	5	利用しやすく働きやすい区役所の整備	2
小南	1	区役所一体となった円滑な市民サービスの提供	2
小南	2	来庁者や職員にとって、安全安心で快適な区役所づくり（カスタマーハラスメント対応）	2
小南	3	迅速かつ的確な問題解決	2
小南	4	情報発信ツールの見直しと発信体制の構築	2
小南	5	地域資源の活用と人材育成	2
若松	1	コンビニエンスストアでの証明書発行の促進	2
若松	2	市民にとってわかりやすい区役所づくり～『施設内の案内、市政情報紙（チラシ、パンフレット類）の配置』	2
若松	3	市民も職員も一目でわかる保育所の申し込みなど申請書類の名称	2
若松	4	生活保護の定例業務のバックオフィス化	2
若松	5	来庁者や職員にとって安全安心で快適な区役所づくり（カスタマーハラスメント対応）	2
若松	6	窓口サービスの持続可能な提供体制の維持	2
八東	1	接遇と空間改善	2
八東	2	（仮称）バリアフリー窓口の設置	2
八東	3	内部事務の効率化・見直し	2
八東	4	来庁者や職員にとって、安全安心で快適な区役所づくり（カスタマーハラスメント対応）	2
八東	5	地域の活力を高める情報発信	2
八東	6	証明書コンビニ交付率の向上	2
八東	7	みんなの市民センター	2
八東	8	市民センターDXの推進（物品購入）	1
八西	1	区役所の案内表示の改善	2
八西	2	増加する外国籍来庁者への親切でわかりやすい窓口対応	2

Aレベルの課題の分析結果一覧

局名	番号	課題名	ランク
八西	3	区の情報発信強化	2
八西	4	来庁者や職員にとって、安全安心で快適な区役所づくり（カスタマーハラスメント対応）	2
八西	5	誰一人取り残さないための防災体制の構築	2
戸畑	1	「歩いて楽しいウォーカブルなまち」としての回遊性向上と賑いの創出	2
戸畑	2	気軽に集まり交流できる場としての区役所づくり	2
戸畑	3	誰もが利用しやすい公園づくり	2
戸畑	4	来庁者や職員にとって、安全安心で快適な区役所づくり（カスタマーハラスメント対応）	2
戸畑	5	各区間における行政事務の事例情報の共有化	2
戸畑	6	行政サービス向上のための制度所管局等と区役所との協議体制構築	2
戸畑	7	まちの魅力の効果的な発信	2
消防	1	救急活動のDX推進	2
消防	2	若手職員の育成と柔軟な発想の活用	2
上下	1	上下水道事業の経営状況の理解促進	2
上下	2	kintoneアプリを利用した電子契約書の管理による業務の軽減	2
上下	3	モバイル端末の活用による業務負荷の軽減	2
上下	4	事業場水質検査データに基づく行政指導の推進	2
交通	1	給与計算事務のDX化	2
交通	2	定期券のキャッシュレス決済化	2
交通	3	実習用定期券発行業務の電子化	2
競技	1	本場入場者数及び外向発売所入場者数の増加	2
競技	2	競輪事業における効率的な事業運営（新規包括業務受託者の選定など）	2
議会	1	市民に開かれた議会の実現を目指して	2
議会	2	議員き章の見直しについて	2
教委	1	電話対応にかかる職員の負担軽減	2

Aレベルの課題の分析結果一覧

局名	番号	課題名	ランク
教委	2	通学区域の間合せ対応にかかる負担軽減	3
教委	3	教職員にかかる業務のDX化〈委員会内のDX推進〉	2
教委	4	学校事務実情調査の見直し	3
教委	5	HPとSNSを活用した学校給食の取組に関する市民周知	2
教委	6	学校からの各種連絡のDX化〈学校・委員会間のDX推進〉	2
教委	7	学校現場のDX化による教員等の負担軽減〈学校内のDX推進〉	2
教委	8	図書館における利用者サービスの向上	2
行委	1	採用試験等の情報発信の強化	2
行委	2	職員の労働環境の改善に向けた人事委員会勧告	3
行委	3	外部業者に委託する投票速報システムの見直し（職員で内製化）	3
行委	4	投票所で使用する掲示物の統合整理（わかりやすい掲示物）	3
行委	5	事務ミスを未然に防止するための効果的な情報発信（Dr.カンサ）	2
行委	6	内部統制と連携した効果的な監査の推進（両輪としての監査の役割）	2
行委	7	「改善提案型監査」の実施による市役所業務の改善・改革への寄与	2

B・Cレベルの進捗評価について

事務局において各局の回答を集約・整理する過程で、B・Cレベルの進捗評価にあたっては、X方針そのもののバージョンアップ、バージョンアップの状況確認が重要と認識。

(その理由)

- ① 進捗評価では、取組みの実施が課題の解決にどの程度寄与したかを測る必要。
⇒ 現状のX方針では、何を解決しようとしているのか、課題の内容が不明瞭で、進捗を把握しがたいものがある。
- ② B・Cレベルは、取組みの実行を通じ、当初設定した課題がより具体的になっていくもの（課題のバージョンアップ）。
⇒ 課題自体のバージョンアップも課題解決に向けた前進であるが、今回の照会は、取組内容の把握に留まっている。

「変革課題に対する各局区長の取組姿勢を示す」という現在のX方針を「進捗状況を的確に把握・評価できるもの」にバージョンアップさせる必要。

その上で、今後のX会議で、課題のバージョンアップ状況も含めたB・Cレベルの進捗状況を集約・分析する

※ 市HPで現時点の内容は公表する。

X方針 B・Cレベルの進捗把握のイメージ

○B・Cレベルでは、取組みを実行した結果、課題がより明確となったり、今後の取組み内容が変わってくる。その点も含めて、進捗を把握することが必要。

X方針策定時 (R6.8時点)	進捗把握のイメージ (R6.11時点)
<p>課題B (2)</p> <p>① 課題名 公共施設マネジメント実行計画の見直し</p> <p>② 課題の内容 ・ 公共施設の持続的な運営と財政健全化のため、建築費高騰や施設老朽化などの取り巻く状況の変化を踏まえて、総量の抑制に加え、新たな公民連携や横断的な組織体制による取組みを推進する公共施設マネジメント実行計画の見直しを行う必要がある。</p> <p>③ 課題の背景 ・ 現在の「公共施設マネジメント実行計画」では、公共施設の総量の抑制や、運営方法見直し、資産の有効活用などの取組みを進めているが、公共施設の集約・廃止に際しては機能移転や施設統廃合に時間を要し、当初計画より進捗が遅れている。 ・ また、建築費の高騰や施設の老朽化の進行等により、将来必要となる経費が増加する。 ・ このため、当初計画の見直しにあたっては、 ・ 現状を踏まえた総量の見直し ・ 統廃合時期の前倒し ・ 公民連携などの新たな取組みなどの視点が必要。</p> <p>④ 課題に対する取組 ・ 今年度中に、公共施設全体の収支状況、利用状況等のデータの集約、将来必要となる改修費の再算定を行う。 (これらを踏まえ、総量の抑制量、施設統廃合等の前倒し時期等の数値目標を変更。) ・ 集約・廃止施設のマネジメント手法について、公民連携の調査・研究を行う。 ・ これらの方向性や検討過程を踏まえて、令和7年度に実行計画の改訂を行う。</p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・ X方針の中には、「課題の内容」「課題の背景」の記載内容が混然とするなど、「何を解決すべきなのか」が不明確なものがある。</p> <p>・ そのようなX方針では、取組みの実施を通じて課題の解決にどの程度近づいたか、到達度を測ることが困難。</p> </div>	<p>課題B (4)</p> <p>① 課題名 同左</p> <p>② 課題の内容 ・ 公共施設を持続可能性をもって維持管理し、その価値を最大限発揮させていくため、建築費高騰や施設老朽化、市民ニーズの多様化などの取り巻く状況の変化を踏まえて、総量の抑制だけでなく、施設の立地や性格に応じた公民連携の取組みを着実に進めるよう、公共施設マネジメント実行計画の見直しを行う必要がある。</p> <p>③ 課題の背景 ・ 現在の「公共施設マネジメント実行計画」では、公共施設の総量の抑制や、運営方法見直し、資産の有効活用などの取組みを進めているが、施設の削減時期を耐用年限の到来時期に設定しているため、削減量は計画目標の20%に対し1%に留まっている。 ・ また、利用者・市民全体の目線から、個々の施設の利便性や存在価値等の課題を整理することが進んでいない。 ・ 今後も建築費の高騰や施設の老朽化の進行等により、将来必要となる経費が増加する。 ・ このため、当初計画の見直しにあたっては、 ・ 利便性・魅力・質の向上といった点から施設のあり方の検討 ・ 公民連携などの新たな取組み ・ 財政運営や地域のまちづくりとの整合などの視点が必要。</p> <p>④ 課題に対する取組 ・ 今年度中に、公共施設全体の収支状況、利用状況等のデータの集約、将来必要となる改修費の再算定を行う。 ・ 施設の耐用年限にかかわらず、市の各施設について、利用者・市民全体の目線で点検を実施する。 ・ 点検結果を踏まえ、建替えや複合化、集約・存廃、民間譲渡など、施設のあり方を検討する。その際は、施設の立地や性格を踏まえ、公民連携の可能性も合わせて検討する。 ・ これらの方向性や検討過程を踏まえて、令和7年度に実行計画の改訂を行う。</p> <p>⑤ 取組みの進捗状況、取組結果 ・ 10月の第3回X会議において、現状分析や先進事例等の資料に基づき、今後の方向性について議論した。 ・ 上記の議論において、「施設の価値の最大化」「利用者・市民全体の目線」「公民連携」の重要性が明らかとなり、本X方針について、課題の内容・背景・取組みを見直した。 ・ また、市の各施設に対する利用者・市民全体の目線での点検を、令和6年11月に着手した。</p>

B・Cレベルのバージョンアップの手順

○ 事務局においてX方針の各項目で記載すべき内容を明確にする。



○ 各局に依頼し、年度末にかけてバージョンアップの作業を行う。



○ 必要な時点更新も行った上で、令和7年度当初に、バージョンアップしたX方針及び進捗状況をX会議で報告する。